

値下げ拡大求め提訴

産経

8.16 北総線 あす白井、印西の住民ら

北総鉄道（北総線）の運賃問題をめぐり、白井市と印西市の住民や市議らでつくる「北総線値下げ裁判の会」（武藤弘代表）は17日、成田スカイアクセスの運賃認可や、線路使用料の認可取り消しなどを求める行政訴訟を東京地裁に起こす。

高額な運賃が指摘されてきた北総線をめぐって、県や沿線6市は昨年11月、年間3億円の原資を負担すること、平均4・6％の値下げに合意。7月17日の成田スカイアクセス開業に合わせ、運賃の値下げが実施された。

「北総線値下げ裁判の会」では、2月に国が認可した北総鉄道、スカイアクセスの運賃認可と、北総鉄道が京成電鉄から受け取る線路使用料の認可は違法と主張。認可の取り消しを訴えるとともに、国が鉄道事業者に対し、運賃値下げの変更命令を出すよう求めていくとしている。